

[公演概要]

2012年2月9日[木] - 14日[火]

9日[木] 10日[金] 11日[土] 12日[日] 13日[月] 14日[火]

15:00 ○ ● ● ● ● ●

19:30 ☆ ● ● ● ● ★

☆=プレビュー公演 ○=託児あり(要予約) ★=プレトークあり(19:00~)  
※開場は開演の30分前(13日のみ18:45開場)

会場 **KAAT 神奈川芸術劇場**〈大スタジオ〉

料金 一般 3,500円  
U24チケット 1,750円 (24歳以下対象/枚数限定/要身分証明書)  
高校生以下割引 1,000円 (高校生以下対象/枚数限定/要生徒手帳)  
シルバー割引 3,000円 (満65歳以上対象/要身分証明書)

プレビュー公演 一般 2,000円 24才以下 1,000円  
※全席自由/入場整理番号付き  
※U24チケット・高校生以下割引・シルバー割引はチケットがながわで電話予約のみ。

[チケット取扱]

**チケット好評発売中!**

チケットがながわ TEL: 045-662-8866  
窓口: KAAT 神奈川芸術劇場2F (10:00~18:00年末年始休)  
インターネット予約: <http://www.kaat.jp>

チケットぴあ 0570-02-9999 <http://pia.jp/t>  
[Pコード: 416-963]

e+(イープラス) <http://eplus.jp/kaat/> (パソコン・携帯)

※未就学のお子様のご入場はお断りしております。  
※託児サービスは、公演1週間前までに要電話予約・有料。  
マザーズ TEL: 0120-788-222  
※車イスでご来場の方は、事前にチケットがながわにご連絡ください。

[地点×KAAT神奈川芸術劇場 特設サイト]

<http://chiten-kaat.net/>

Twitter「トカトントン」とハッシュタグ⇒ #chitenkt

**TPAM** 国際舞台芸術ミーティング in 横浜  
TPAM in Yokohama 2012  
TPAMディレクションPlus参加作品(13-14日公演)  
TPAM/バスをお持ちの方には優先販売あり。(限定枚数)  
詳しくはTPAM事務局にお問い合わせください。(03-5724-4660)

助成 平成23年度文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業  
EU・ジャパンフェスト日本委員会 / 京都芸術センター制作支援事業

[主催・お問合せ]

**KAAT 神奈川芸術劇場**

〒231-0023 横浜市中区山下町281  
TEL.045-633-6500(代表) FAX.045-681-1691  
<http://www.kaat.jp/>

- みなとみらい線: 洗谷駅から東横線直通で35分! 横浜駅から6分!  
日本大通り駅から徒歩約5分。元町中華街駅から徒歩約8分。
  - JR根岸線: 関内駅または石川町駅から徒歩14分。
  - 市営地下鉄: 関内駅から徒歩14分。
  - 神奈川芸術劇場有料駐車場(65台)もご利用下さい。
- 指定管理者: (公財) 神奈川芸術文化財団



チェーホフに長年取り組み、  
《近代》についてこれまで一貫して考えて来た地点と三浦基が、  
《戦後》という切り口から日本の近現代を考える最新作。



(NIPPON文学シリーズ) 前回公演「Kappa / 政小説」2011. photo: Takehiko Hashimoto

出演 | 安部聡子 石田 大 窪田史恵 河野早紀 小林洋平

美術 | 山本理顕 (山本理顕設計工場)  
照明 | 大石真一郎  
音響 | 徳久礼子  
衣裳 | 堂本教子 (atelier88%)  
舞台監督 | 山口英峰  
プロダクション・マネージャー | 山本園子  
宣伝美術・WEB | 松本久木 (MATSUMOTOKOBO Ltd.)  
制作 | 伊藤文一 田嶋結菜  
広報 | 熊井一記  
営業 | 中里也才志

## トカトントンと

原作 | 太宰治 演出・構成 | 三浦基



三浦基 | Miura Motoo

地点代表。演出家。1973年福岡生まれ、秋田育ち。日本文学から演劇を立ち上げるという難題を劇場から与えられ、昨年は芥川龍之介と関東大震災の関係に着目し人の生の儚さについて考えるが、初日に東日本大震災に見舞われ上演中止となる。混乱の中、二年目の作品をどうしようかと思っているうちに時間切れとなり太宰治に決定。秋田高校時代、図書館で太宰治全集を読破し、無頼派になってはいけないと決意する。それ以来、太宰が好きだという人々とは距離を置くように努める。著書に「おもしろければOKか?現代演劇考」(五柳書院)。

太宰治 | Osamu Dazai

1909年青森生まれ。戦争中も旺盛に執筆し、検閲とたたかいながら「走れメロス」「お伽草紙」「津軽」などの作品を発表した。語り口調の文体が特徴的で、口述筆記によって書かれた作品も多い。戦後、太宰自身がチェーホフの「桜の園」を強く意識して書いたといわれる「斜陽」が大ベストセラーに。人気絶頂の1948年、玉川上水で入水自殺。未完の小説「グッド・バイ」が遺作となった。

表面写真 撮影: 渡辺好章 昭和19年 日本近代文学館提供

**KAAT**  
KANAGAWA ARTS THEATRE